

2025年度

# 大学院入学試験問題

経済学研究科 博士課程

前期課程Ⅱ期

《経済学専修コース》

外国語

日本語

広島経済大学

〔試験日：2025年2月25日〕

以下の問題 1、問題 2 について解答しなさい。

問題 1. 次の文章は、阿部大輔「オーバーツーリズムを超えて (1) ～ (3)」より一部抜粋・改変したものである。これを読んで、後の設問に解答しなさい。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

(出所：阿部大輔（龍谷大学教授）「オーバーツーリズムを超えて（1）～（3）」日本経済新聞朝刊  
2024年5月14～16日の連載より一部抜粋・改変）

設問 1. 文章中の下線部①～⑫の語句について、漢字は読みがなに、カタカナは漢字に変え、それぞれの解答欄に記入しなさい。

設問 2. 文章中の二重下線部⑬～⑱の日本語と同義のカタカナ語を下の語句群から選んで、番号で解答欄に記入しなさい。

1. エンデミック
2. ポストコロナ
3. パンデミック
4. ビフォーコロナ
5. アウトバウンド
6. プリコロナ
7. デスクバウンド
8. インバウンド

設問 3. 本文の内容について、次の記述から正しいものを 1 つ選んで、番号を解答欄に記入しなさい。

1. 今日までは訪日外国人旅行者数より、出国日本人旅行者数がずっと優勢であった。
2. 2007年の観光立国推進基本法の施行、2008年の観光庁設置などの基盤整備が進んだ後は、出国日本人旅行者数より、訪日外国人旅行者数のほうが優勢であった。
3. 2014年までは出国日本人旅行者数より、訪日外国人旅行者数のほうが少なかったが、2015年からはその数が逆転した。
4. 2015年からは訪日外国人旅行者数と出国日本人旅行者数が逆転し、出国日本人旅行者数が優勢に転じた。

設問 4. 波線 (A) 「観光と「まちづくり」は根本的な発想が異なるという記述について、以下の問いに答えなさい。

問 1. 両者が異なる理由を 40 字以内でまとめなさい。

問 2. 近年、両者が接近するようになった理由について、150 字以内でまとめなさい。

設問 5. 波線 (B) 観光を巡る議論において、いくつかの逆説をはらんでいるという記述について、本文より 3 つ視点から観光活動における逆説を、300 字程度でそれぞれ例を挙げながら説明しなさい。

問題 2. 次の日本語の文章を読んで、あとの設問に解答しなさい。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

著作権の関係上、この部分の公開をしていません。

(出所：植田和男『〔図解〕大学4年間の金融学が10時間でざっと学べる』KDOKAWA 2018年  
78頁～79頁より引用・一部改変)

設問1. 文章中の下線部①～⑦の語句について、すべて漢字に直し、それぞれの解答欄に記入しなさい。

設問2. 文章中の(a)～(f)の空欄に、最もよくあてはまる語句を次の語群から選んで、番号を解答欄に記入しなさい。

1. 外国
2. 輸出
3. 変動
4. 浮動
5. 財
6. 消費者
7. 消費
8. 固定
9. 国際
10. 国内
11. 価格
12. 価額
13. 需給
14. 供給

設問3. 波線(A)の語句を用いて、簡単な例文を50文字程度で作きなさい。

設問4. グラフについて、200字程度で説明しなさい。